

## 第63回総会期第7回「東日本大震災」被災支援委員会報告

報告 小池正造

3月18日に、第7回「東日本大震災」被災支援委員会が、大宮教会を会場に行われました。

金刺主事から、会計報告がまり、他教区より献金があったことが報告されました。第6回委員会で決定をした桐生東部教会、益子教会、水戸自由が丘教会への支援を実施しました。3月14日現在の残高は、7,680,289円になります。秋山委員長より①佐野教会へ訪問し、専門家と一緒に再建プランを話し合ったこと、②宇都宮教会の竣工式に立ち会ったこと、③教団対策本部会議が行われ、アジア学院への有利子での融資が決まったこと、④3月9日に教区東日本大震災被災記念礼拝が、筑波学園教会で行われ、100名の出席者が与えられたこと（報告は裏面を参照）、⑤3月11日から教団東日本大震災被災記念礼拝・講演会／国際会議が東北学院を会場に行われ、記念礼拝には550名の出席者、国際会議には250名の出席者が与えられたことが報告されました。飯塚統括主任から佐野教会の再建プランを今月中に作成する予定であることが加えて報告されました。また、各被災教会の状況について報告がなされました。伊勢崎教会は3月23日に献堂式を予定していること、下館教会は2月中に竣工して会堂を使用していること、宇都宮上町教会は臨時総会を開き会堂建築を決議したこと、四條町教会清愛幼稚園の園舎が完成したことなどが報告されました。小林委員から、ボランティアについて、通常ボランティアは、春は多くの学生が応募するため、教区からは派遣しないこと、一方で、調理ボランティアは必要とされているので派遣を続けることが報告されました。

アジア学院の受けた教団からの融資について、教区は、アジア学院の設置の背景をふまえて、会堂再建融資（無利子）を申請しましたが、アジア学院が学校法人のため有利子の融資となりました。そこで、支援委員会では協議をして、利息分(0.5%)を、支援することにいたしました。

教区総会議案・報告書作成について、加藤書記、小林委員、飯塚統括主任で分担をして執筆することを確認いたしました。

水戸中央教会の再建計画が遅延していることについて、秋山委員長、飯塚統括主任、小林地区長で問安をし、現状把握することを確認いたしました。

次回委員会は、4月22日常置委員会後に開かれます。

### 日本基督教団東日本大震災救援募金

\*現在の募金状況(2014.3.26現在)

¥ 845,191,823

「東日本大震災救援募金」

¥ 370,063,429

「東日本大震災海外献金プロジェクト」

### ボランティア募集

春のボランティアは、  
食事ボランティアのみ募集をいたします。  
学生さんの申し込みが多く予想される  
ためです。ご了承ください。

問合せ 小林祥人(090-3529-5140)

## 東日本大震災 被災3周年記念礼拝に出席して

筑波学園教会 佐々木裕子

東日本大震災、2011年3月11日から3年の月日が経とうとしていた3月9日、筑波学園教会において関東教区主催の被災3周年記念礼拝が行われました。当日は茨城地区総会が筑波クリスチャンセンターで行われ、引き続きの礼拝ということで100名余の参加を得て各地の牧師先生方、信徒の方々と共に礼拝を守ることが出来ました。3年前の災害を思い起こし、いまだ物心両面において苦しい生活を強いられている被災者の方々に思いをはせ、心を合わせて祈りの時を持つことができました。恵みのうちに意味深い礼拝をもてたことに感謝いたしました。

竜ヶ崎教会の飯塚拓也牧師司式のもと、茨城地区長である小林祥人牧師よりヨブ記を通してメッセージをいただきました。そして秋山徹関東教区総会議長よりのご挨拶、また日本キリスト教団の飯島信震災担当幹事から被災支援の報告がスライドを通してわかり易く説明されました。落ち着いて来たとはいえ、今もなお深い悲しみの中にある方々、辛い生活を余儀なくされておられる方々に私達はどのように寄り添っていけるのか、今一度考える貴重な時を与えられました。

私事ですが災害時、仙台市の南の町に住む夫の実家が被災しました。その日、テレビに映る空からの映像には確かに実家付近が水にのまれる様子が映し出されており、父や兄家族がどうなっているのか、自分の心臓の音が頭に響くような思いでテレビの画面を食い入るように追っていたのを覚えています。その後しばらく消息がつかめず本当に心配な思いで過ごしました。神様にどうか生きのびさせてください、と心を静めながら祈り続けました。2日後の3月13日の礼拝、私は司式の担当でした。いまだ家族の生死もわからず心が揺れ、情報も曖昧で死傷者は時間と共に増え続け心配で地に足が着かないような気持ち、ともすれば涙があふれそうで本当に司式が務まるのか不安でした。祈り、そしてまた祈り、心を静めて司式に望みました。祈祷のなかで、神様のご計画がどのようなものであるか今はわからないけれど、どうかこの未曾有の災害の中でも少しでも多くの方が生還できるよう助けてください、災害に対処している人を強め一人でも多くの人を助けることが出来ますように、すべてのことが神様の御心であると信じます、と切に祈りました。そして礼拝出席者と共にアーメンと言い終えた時、今まで胸の中に吸い続け過換気で苦しかった空気がすーっと外に出て、楽になり平安が与えられました。神様が共に居てくださり、平安と希望を与えてくださると確信することが出来た一瞬でした。90歳近い父は後ろから迫る津波を見ながらも見知らぬ若いご夫婦に両脇を支えられて走り、なんとか避難場所の小学校にたどり着き九死に一生を得ました。家は全壊、周りは瓦礫の山となりました。それまでの生活を証しするほとんどの物を失ってしまった父は、自分の人生が津波で流されてしまったようだ、と淡々と話してくれました。それは私には計り知ることの出来ない深い心の傷を感じさせるものでした。私達に出来る大切なことはこの災害を忘れず心にとどめ、まだ癒えない傷を抱えている被災者の方々と共に歩み、共に祈ることだと思います。神様にすべてをゆだねて歩んで行きたいと願っています。

神様のかえりみが被災者の皆様の上に豊かにありますようお祈りいたします。